



# こんなとき、どうする？どうみる？ 性にまつわる様々なトラブル ～学校現場での被害・加害を中心に～

## 日時・会場

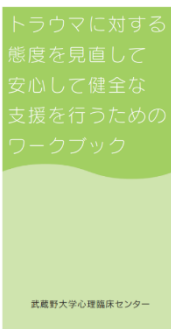
2019年10月5日(土)  
午前10時～午後12時  
会場：鹿児島市医師会館  
〒892-0846 鹿児島県鹿児島市  
加治屋町3番10号

## 定員・参加費

定員 30名  
参加費 1000円  
(資料代含む)

## 申し込み方法

(1)お名前、(2)ご所属、(3)連絡先(メールアドレスおよび電話番号)をkansaishy@gmail.com までメールでお送りください。事務局・吉田より、銀行振り込み情報などをお送りします。入金確認後、参加登録完了となります。



使用する教材『トラウマに対する態度を見直して安心して健全な支援を行うためのワークブック』  
(武蔵野大学心理臨床センター作成)

## プログラム

子どもの様子が気になる… 子どもっぽい子？ ませてる子？ 変わった子！？  
児童生徒間の性的接触… 遊び？ あるいは恋愛？ それとも性暴力！？  
のぞみや盗撮、つきまとい… 「やめなさい」と指導したけれど…  
教員のセクハラ行為… 「同意の上」！？ 生徒も嫌がっていないみたい

学校で起こる性被害や性問題行動は、めずらしいできごとではありません。いまや「よくあるトラブル」の一つといえるでしょう。

ところが、こうした性的なトラブルへの対処をする際に生じるのが、**教職員間の認識のズレ**。問題を懸念する教職員と、「たいしたことではない、おおごとにすべきではない」と思う教職員の間で、**判断がブレて、初期対応が遅れがち**です。支援をすることであっても、「しばらく見守っておこう」とするか、「すぐに専門家のところへ」と考えるか、**どちらが適切な支援プランなのか**悩むところ

性的なトラブルに対応するためには、まずは、教職員自身の意識や態度を見直すことが求められます。そして、学校全体で理解と方針を共有することが大切です。


本セミナーでは、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、**様々な性の問題をどう捉えるか？** 児童生徒の性的な発達段階をふまえて、遊びと暴力の違いを見極める視点をみなさんと共有します。さらに、**性に関する支援を行うことに伴う自分自身への影響を自覚し、(重要なのに忘れがちな)セルフケアの方法**をみつけていきます。


日々の業務で直面する困難を共有しつつ、みんなで学び合う少人数制セミナーです。子どもに関わる様々な立場の方(教職員、スクール・ソーシャルワーカー、スクール・カウンセラーなど)の参加をお待ちしています。


### ◆主な内容

レクチャー「配慮？ 放置？ 子どもの性問題でよくある支援上のミス」  
グループワーク「『私がなんとかしなくっちゃ！』…支援者に生じる反応」ほか

## 講師プロフィール

 **野坂祐子** 大阪大学大学院人間科学研究科・准教授、臨床心理士/公認心理師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行う。児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバイザー。主著『マイステップ：性被害を受けた子どもと支援者のための心理教育ワークブック』(共著、誠信書房、2016年)日本性教育協会(JASE)運営委員。

 **吉田博美** 駒澤大学学生相談室・常勤カウンセラー、臨床心理士/公認心理師。武蔵野大学心理臨床センター研究員。性暴力・性虐待被害者の心理療法が専門。米国ペンシルバニア大学不安障害治療研究センター認定 Prolonged Exposure Therapy スーパーバイザー/セラピスト。

 **東 優子** 大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科・教授。ハワイ大学大学院でソーシャルワークを学び、教育福祉学類では社会福祉士養成課程を担当。WAS(旧・世界性科学学会)役員/性の権利委員会・副委員長。日本性教育協会(JASE)運営委員。

